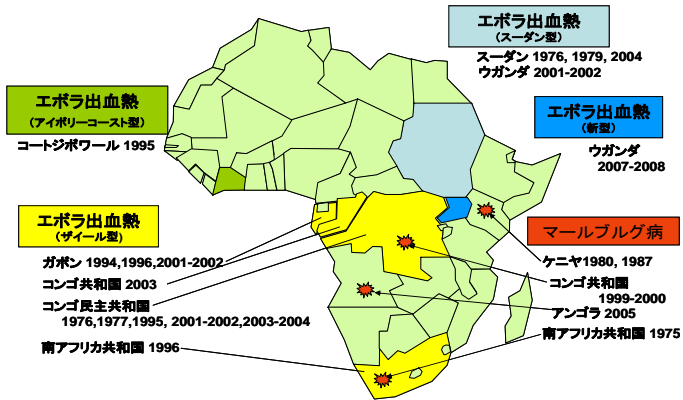


# 「よりよく生きる」領域

## 【現状分析(新興・再興感染症)】

- ・1945年以降、最も重篤な感染症であるクリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱、エボラ出血熱が登場し、現在も流行が繰り返され、先進国においても患者の輸入例が発生しており、我が国でもラッサ熱の輸入例や患者の疑い例が出ている。
- ・近年、東南アジアを中心に高病原性鳥インフルエンザが流行しており、これらのウィルスが人に感染し、死亡する例も報告されている。
- ・我が国で再び流行が見られる麻疹や結核、アジア諸国を中心に見られる多剤耐性結核菌やデング熱等への対策が、引き続き必要な状況となっている。

### アフリカにおけるウィルス性出血熱の流行

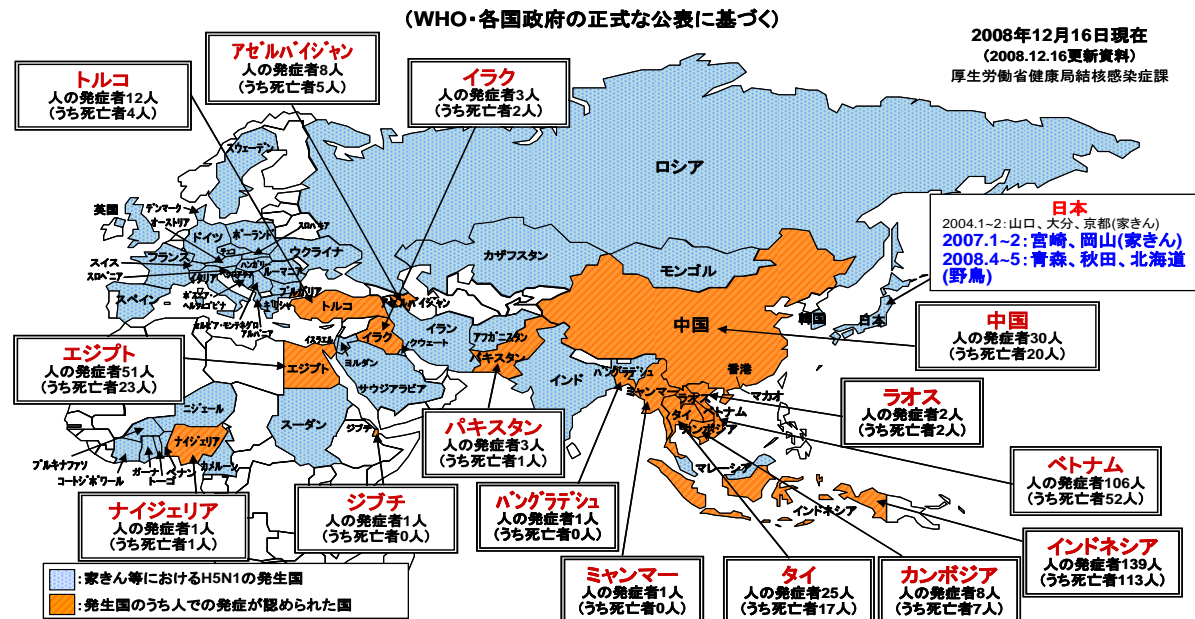


### 欧米における重篤な感染症の発生状況

発生年	発生国	感染国	疾患名	患者
1997年12月	英国	ジンバブエ	クリミアコンゴ出血熱	78歳女性
2000年1月	ドイツ	ガーナ他	ラッサ熱	23歳女性
2000年3月	英国	シエラレオーネ	ラッサ熱	50歳男性
2000年3月	ドイツ	ナイジェリア	ラッサ熱	57歳男性
2000年6月	オランダ	シエラレオーネ	ラッサ熱	48歳男性
2001年7月	セルビア	コンボ	クリミアコンゴ出血熱	69歳
2003年7月	ロシア	ロシア	クリミアコンゴ出血熱	14歳
2004年8月	米国	シエラレオーネ	ラッサ熱	38歳男性
2005年7月	ロシア	ロシア	クリミアコンゴ出血熱	16歳
2005年7月	トルコ	トルコ	クリミアコンゴ出血熱	41歳
2006年5月	セルビア	コンボ	クリミアコンゴ出血熱	3歳
2006年7月	ドイツ	シエラレオーネ	ラッサ熱	70歳男性

(注) 診断が確定できなかった疑い患者は元表から除外。なお、欧州各国では疑い患者は毎年発生の状況。(元表はGermany, Frankfurt City Health Departmentから提供)

### 鳥インフルエンザ(H5N1)発生国及び人で発症事例



注1) 上記の他、人への感染事例として、1997年香港(H5N1 18名感染、6人死亡)、1999年香港(H5N2 2名感染、死亡なし)、2003年香港(H5N1 2名感染、1人死亡)、2003年オランダ(H7N7 89名感染、1人死亡)、2004年カナダ(H7N3 2名感染、死亡なし)、2007年英国(H7N2 4名感染、死亡なし)等がある。

注2) 上記のうち、モンゴル、イタリア、ブルガリア、スロベニア、ギリシャ、オーストリア、スロバキア、スイス、スウェーデン、ボスニアヘルツェゴビナ、スペインは野鳥からの検出。

参考: WHOの確認している発症者数は計391人(うち死亡247人)。

出典: WHO-OIEホームページ

## 【対応状況(新興・再興感染症)】

・関係省庁において、感染症対策総合研究(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究(仮称))や新興・再興感染症研究拠点形成プログラム等、関連施策を実施している。

### 感染症対策総合研究の一部(厚生労働省)

#### 1. 新型インフルエンザへの対応に関する研究

人類のほとんどの者が免疫を持たない新型インフルエンザは、歴史的に数十年に一度の頻度で発生しており、予断を許さない状況が続いている。発生した場合、我が国で2500万人が医療機関を受診し、死亡者は64万人に達すると想定されており、発生時の被害を最小限にすべく、国の危機管理上の課題として、体制整備・研究開発を進める。

- 細胞培養や経鼻粘膜ワクチンなど、ワクチン開発のための基礎研究及び実用化のための臨床研究
- 我が国の施策の基礎となる公衆衛生的介入に資する研究
- 各種施策介入のシミュレーションモデルの開発等の疫学研究及び社会学的研究 等

その他、国内及び国外の感染症対策を総合的に構築することを通じて、我が国の健康と安全を確保する。

#### 2. 感染症の新たな脅威への対応及び感染症対策の再構築に関する研究

- パオテロに迅速に対応するための迅速診断法やワクチン開発等の研究
- 2012年までに排除を目指す麻疹(はしか)や、まん延国と定義される結核等に関する感染症対策の点検及び再構築を行うための研究 等

#### 3. 国際的な感染症ネットワークを活用した対策に関する研究

- アジア諸国を中心に見られる多剤耐性結核菌や Dengue 熱等の感染症対策に資する研究
- 我が国の水際対策に資する周辺諸国における各種感染症の発生動向の把握、感染症対策に関する研究 等

#### 4. 感染症対策にかかる基盤整備

- 迅速な対応の基盤となる感染症の発生動向に関する新たなサーベランスの研究
- リスクコミュニケーションのあり方の研究 等

### 新興・再興感染症研究拠点形成プログラム(文部科学省)

#### 【概要】(H17～H21)

アジアを中心とした新興・再興感染症の発生国あるいは発生が想定される国に、現地研究機関との協力の下、海外研究拠点を設置するとともに、国内の体制を整備し、感染症対策を支える基礎研究を集中的・継続的に進め、知見の集積・人材育成等を推進。

